

おうちスタイル

夜長に オススメ

福岡市で薬剤師として働く中村守男さん(34)は帰宅するとまず、自室の入り口に取り付けた「パパポスト」のふたを開ける。「パパ、いつもおしごとありがとうございます」「パパのようになりたいです」。小学1年の基力君(6)と野々花ちゃん(5)からの手紙が、何よりうれしい。

夜遅く帰宅したとき、仕事机にたびたび手紙が置いてあった。うれしい半面、ぼつんと置かれている手紙

を見ると、自分だけが家族と一緒に時間を過ごせていないことが、たまらなく寂しく感じられた。

そんな思いをつぶやくと、妻の麻里子さん(31)は「じゃあポストでも作ったらいじゃん」。持ち前の「工作魂」に火が付き、子どもたちと一緒に、子どもの分まで計三つ作った。ポストには手紙や絵のほ

かにもいろんな物が入っている。ある日は、おもちゃの一万円札が入っていた。

基力君は「お金が欲しいと言ったから」と言うのだが、記憶にない。野々花ちゃんも、家族旅行で訪れた別府の地獄巡りのパンフレットを入れていた。まだまだまく字が書けない長女なりのアピールだった。「こんなことを考えているんだ」

と、思いも寄らない発見ばかりだ。

中村さんはA4判の用紙を二つに切り「ちゃんとお薬飲めたね」「野々花の面倒を見てね」などひとこと書く。立ち止まって子どものことを考えるひととき。大切な「パパ時間」だ。

【パパポストの作り方】

紙の箱を用意する。中村さんの場合、ティッシュケ

父子遊び①

パパ。ポスト作ろう

1スは強度不足だったので、1000円ショップで買った箱を使った。ふたに手紙を投函できるくらい長方形の穴を開け、箱の上方にテープで留める。絵や折り紙で自由にデザイン。ふたを開け、箱の底を押しピンで壁に取り付け、完成。



パパ用に作ったポスト